



(限 内)

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百五十五號

昭和十六年十一月二十六日(水)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房機密第九〇九七號ノ五  
昭和十七年機密第一八八〇號ニテ本號廢止  
 第二遣支艦隊司令部附ニシテ廣州灣方面ニ在ル者ノ給  
 與及其ノ他ノ經費支拂ハ南支海軍特務部員ヲシテ之ヲ  
 掌理セシム

昭和十六年十一月一日  
 海軍大臣

官房機密第六六二九號ノ三  
 臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス  
 昭和十六年十一月二十日

海軍大臣

第一條第一號ニ「特設海軍燃料廠」ヲ加フ  
 第二條第一號(二)、第三號(二)、第四號(三)及第六號(二)中  
 「及特設海軍氣象部」ヲ「特設海軍氣象部及特設海軍  
 燃料廠」ニ改ム

官房機密第一〇九五〇號  
昭和十七年機密第一八八〇號ニテ本號廢止  
 主計長ヲ置カレザル特設艦船部隊ニ要スル給與其ノ他  
 ノ經費ノ掌理ハ昭和十五年官房機密第七四四五號ノ五  
 ニ依ルノ外所屬長官ハ當該艦船部隊ノ所管鎮守府ニ屬  
 スル海軍經理部ニ之ヲ委託スルコトヲ得但シ任務行動  
 ノ關係上必要ト認ムル場合ニハ適宜他ノ鎮守府ニ屬ス  
 ル海軍經理部ニ之ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ掌理ヲ委託シタル場合ニハ速ニ海軍大臣ニ報告  
 スルト共ニ但書ノ場合ニハ該艦船部隊ノ所管鎮守府ニ  
 屬スル海軍經理部長ニ通知スベシ  
 本令ハ昭和十六年十月十五日ヨリ之ヲ適用ス  
 昭和十六年十一月二十五日  
 海軍大臣



官房第六〇八五號  
 昭和十六年度歳出科目中左ノ通追加ス  
 昭和十六年十一月二十五日

海軍公報(部内限) 第三千九百五十五號  
 昭和十六年十一月二十六日  
 一五四九

0599



○通牒

官房第五四九六號ノ二

昭和十六年十一月二十六日

海軍省副官

關係各廳長殿

記

定期航空便海軍指定座席使用ニ關スル件  
通知

本年官房第五四九六號ニ依ル大日本航空株式會社經營  
定期航空便指定座席ニ十一月一日以降左記ノ通追加セ  
ラレ候

搭 乘 區 間	一ヶ月借 上座席數	單 價	管 制 應	座席使用中出期日	記 事
自横濱 至サイパン	三六	二三五 <sub>円</sub>	上リ 大日本航空株式會 社横濱支所長海軍 囑託下山二郎 下リ パオニ於テハ南 洋群島在勤武官共 ノ他ニ於テハ第四 艦隊司令長官ノ定 ムル所ニ依ル	定期便二日前(出 發當日ヲ除ク)迄 ニ管制應ニ照會シ 座席ノ指定ヲ受ク ルモノトス	毎週各航 路共上下 便各六席
自サイパン 至トラツク	三六	一一〇			
自トラツク 至パヲオ	三六	一九〇			
自トラツク 至ポナベ	二四	七〇			
自ポナベ 至ヤルト	二四	一二五			

参照 昭和十六年十月三十一日海軍公報(部内限)

經機密第三號ノ六九

昭和十六年十一月二十五日

海軍省經理局長

各支出官殿

軍需手形認證ニ關スル件通牒

本年官房第四八四四號ニ依ル軍需手形ハ一般會計特別  
會計ノ各科目ヲ通シ利用シ得、又各支出官ニ於テ認證

海軍公報(部内限) 第三千九百五十五號

昭和十六年十一月二十六日

一五五一

0601

シ得ル金額ハ爾今特令アル迄經物第一五八號軍需手形  
取扱要領第二號第二項ノ規定ニ拘ラズ指示ヲ俟タズ  
テ適宜認證シ得ル儀ト承知相成度

○ 辭 令

海軍規格審議會議員ヲ命ス  
海軍中將 副島 大助

(各通)

海軍中將 鍋島 茂明  
海軍少將 山中 朋二郎  
海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス

海軍大佐 岡崎 文勳  
燃料政策調査會委員ヲ命ス

(各通)

海軍中佐 野 間 徹  
海軍少佐 石川 健逸  
海軍武官任用委員ヲ命ス  
海軍學生銓衡委員ヲ命ス  
海軍武功調査委員ヲ命ス

(各通)

海軍中佐 小田原 俊彦  
海軍少佐 伯耆 徳吉  
同 井上 磯次  
海軍豫備學生採用試験委員ヲ命ス(以上 海軍)

省)

(各通)

軍令部出仕海軍教授 井桁 貞敏  
同 齋藤 榮治  
同 田中 敬次郎  
特務班長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ  
同 鮫島 龍男

第三部長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上 軍令部)

海軍主計兵曹長 石田 千代信

第十九號掃海艇ノ給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊  
經費分任出納官吏ヲ命ス(海軍省 海軍省經理局  
長)

○ 雜 款

○將旗掲揚  
第二十一航空戰隊司令官ハ十一月二十二日將旗ヲ臺中  
航空基地ニ掲揚セリ

○司令艇一時變更

第一水雷隊司令官ハ十一月二十三日司令艇ヲ一時變更  
更ニ同二十日鴻三復歸セリ

○郵便物發送先

當隊宛郵便物ハ自今左記ニ依リ發送相成度

記

十二月十日迄ニ到達見込ノモノハ

鹿兒島縣鹿屋郵便局氣付 海軍堀内部隊

其ノ後ハ

臺灣臺南州嘉義郵便局氣付 海軍堀内部隊

(横須賀鎮守府第一特別陸戰隊)

横須賀第二海兵團宛

當分ノ間

横須賀第一海兵團氣付

當隊第一派遣隊宛

自今

横須賀郵便局氣付第五三五四七八

追テ本隊(第九一五四)及殘留隊宛ハ從前通

(千歲海軍航空隊)

○事務開始

十一月二十日舊横須賀海兵團内ニ本部ヲ置キ事務ヲ開始セリ

(横須賀第二海兵團)

海軍公報(部内限)第三千九百五十五號

昭和十六年十一月二十六日

一五五三

0603

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百五十六號

海軍大臣官房

昭和十六年十二月二十七日(木)

## ○令 達

官房機密第九〇九七號ノ六  
本年官房機密第九〇九七號中「南遣艦隊旗艦主計長」  
ヲ「第十一特別根據地隊主計長」ニ改ム

昭和十六年十一月二十日

海軍大臣

(参照) 本年官房機密第九〇九七號ハ西貢出入ノ艦船經費ノ支拂ニ  
關スル件ナリ

## ○辭 令

海軍主計中佐 加藤 勲(經校)

特務艦伊良湖審議委員ヲ命ス

同 小柏 直衛

特務艦伊良湖審議委員ヲ免ス(以上計二名)海軍艦政本  
部)

## ○雜 款

○司令潜水艦一時變更  
第二十八潜水隊司令ハ十一月二十三日司令潜水艦ヲ一  
時伊號第五十九潜水艦ヨリ伊號第六十潜水艦ニ變更セ  
リ

○郵便物發送先  
葛城丸宛

航空郵便

横須賀郵便局氣付三〇三九留置

當隊宛郵便物ハ從來隊名ヲ「海軍齋藤部隊」トシテ取  
扱ヒ來リシ處他ニ同隊名アリ誤送サルル懼アルニ付自  
今左記ニ依リ發送相成度

記

普通郵便

佐世保郵便局氣付

航空郵便

第七海軍軍用郵便所氣付

(佐世保鎮守府第八特別陸戰隊)

自今當隊司令部及元山海軍航空隊宛郵便物ハ左記宛發

海軍公報 (部内限) 第三千九百五十六號 昭和十六年十二月二十七日

一五五五

0604

送(轉送) 相成度

第二十二航空戰隊司令部宛

佐世保郵便局經由 第四十一海軍軍用郵便所氣付

海軍松貞部隊司令部

元山海軍航空隊宛

同 右

海軍前田部隊

(第二十二航空戰隊司令部)

自今當廠宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度

佐世保郵便局氣付

海軍鈴木(師)部隊

追テ海軍航空技術廠内事務所ハ十一月二十六日撤去セリ

(第百三海軍航空廠)

横須賀鎮守府第三特別陸戰隊宛

當分ノ間

館山海軍航空隊氣付

海軍福見部隊

○事務開始

横須賀鎮守府第三特別陸戰隊ハ十一月二十日館山海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○轉勤者旅費支給ノ件照會

當隊ノ轉勤者ノ旅費支給ニ關シテハ左記ニ依リ度

記

一 本隊ヘノ轉勤者ノ概算拂ノキト

二 殘留隊ヘノ轉勤者ハ朝鮮元山海軍航空隊(從前通)

海軍前田部隊(元山海軍航空隊)

○特技兵(假稱)銓衡筆答試驗問題發送

第五回機關術 掌機術 掌内火術 專修特技兵(假稱)銓衡筆

答試驗問題

右十一月二十四日左記ノ通發送済、未着ノ向又ハ別ニ必要ノ向ハ至急御通知相成度

記

一、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送セリ

一、聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部第一課長宛送付

一、聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲

聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記諸官宛

單獨試驗用若干部送付シ置ケリ

(海軍工機學校)

0605

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十六年十一月二十七日(水)  
海軍大臣官房

○雜款

○懲罰

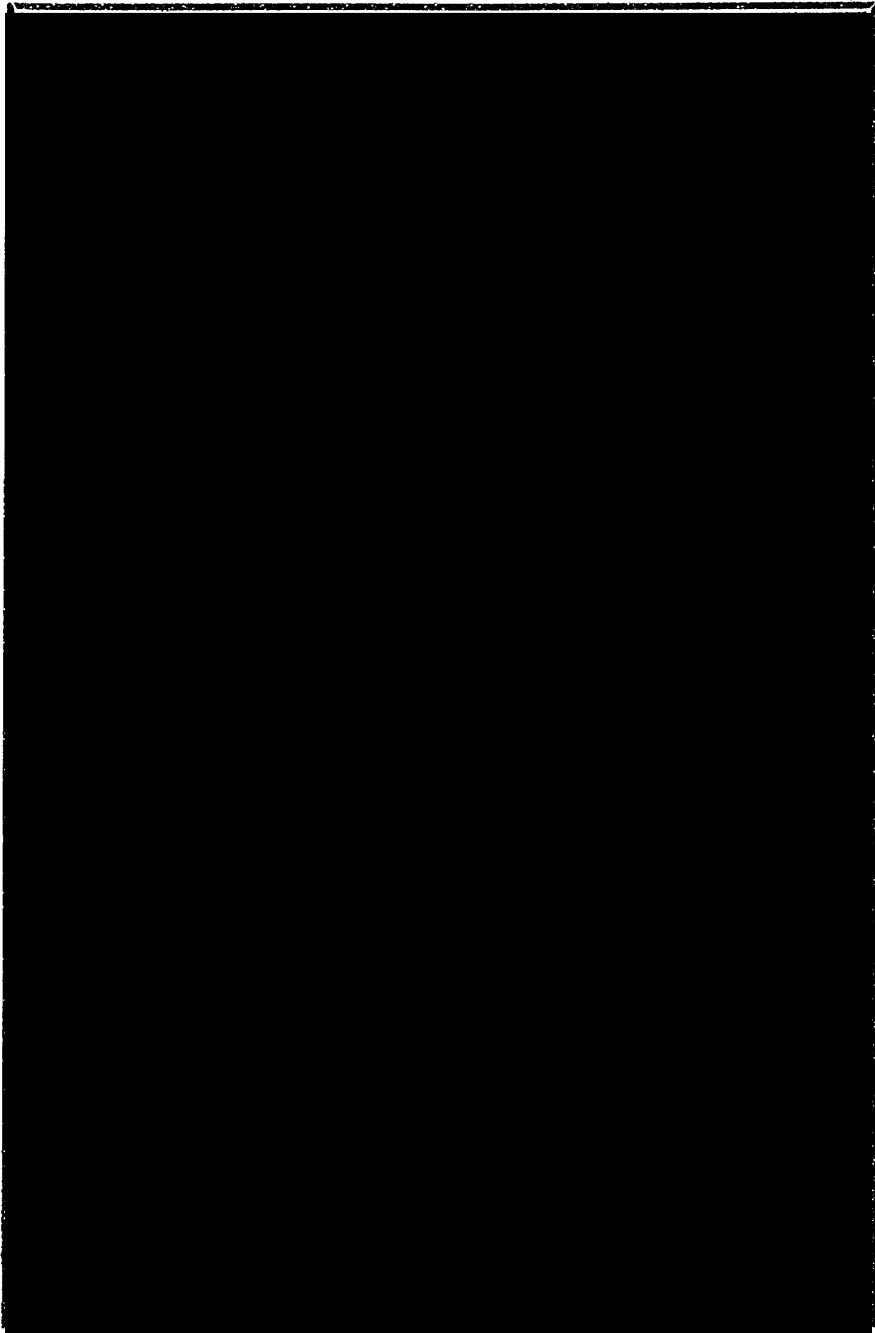
懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 號外

0606

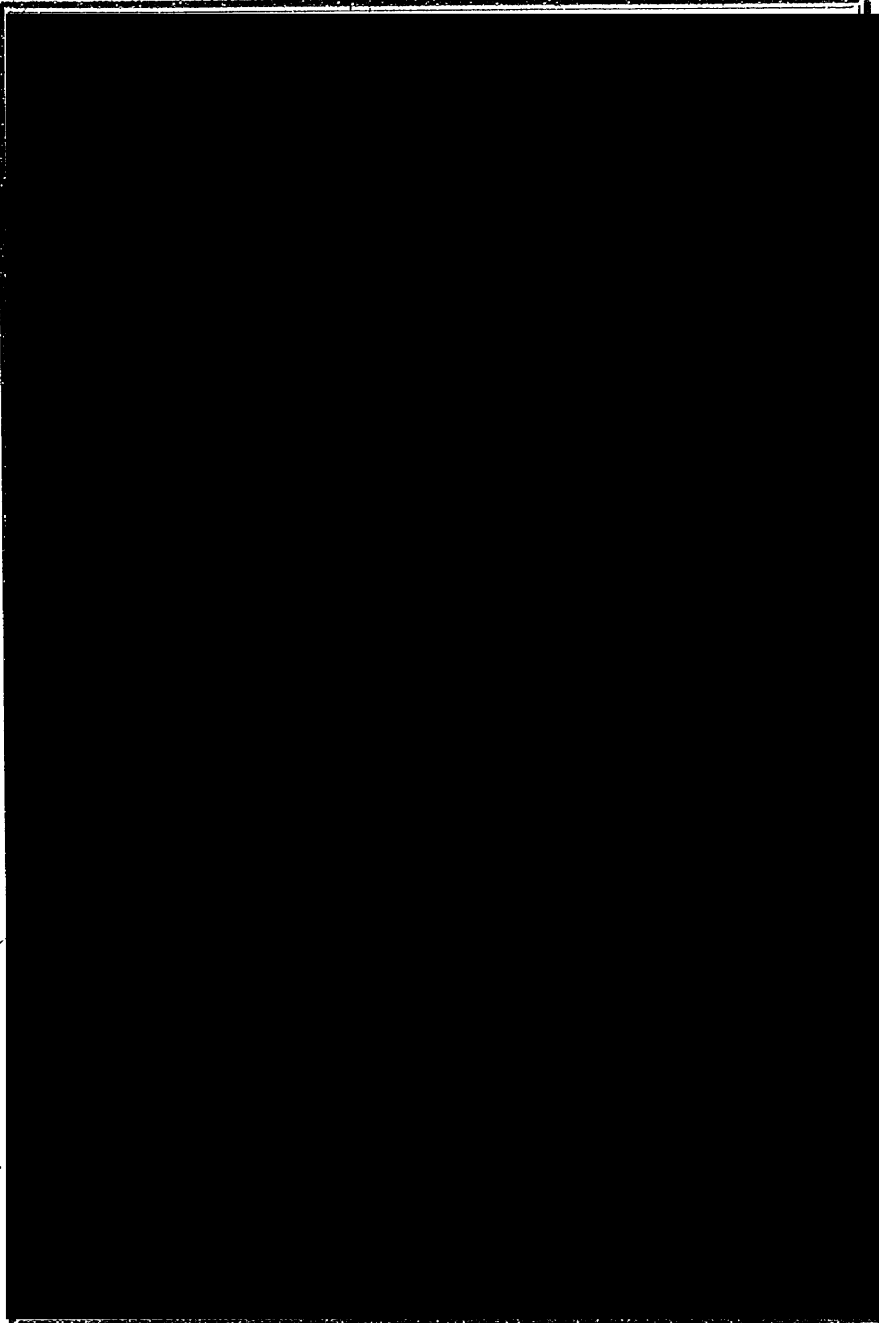


海軍公報 (部内限) 號外



0607

海軍公報 (部内限) 號外



三

0608

海軍公報 (部内限) 號外

四

0609

海軍公報 (部内限) 號外

五

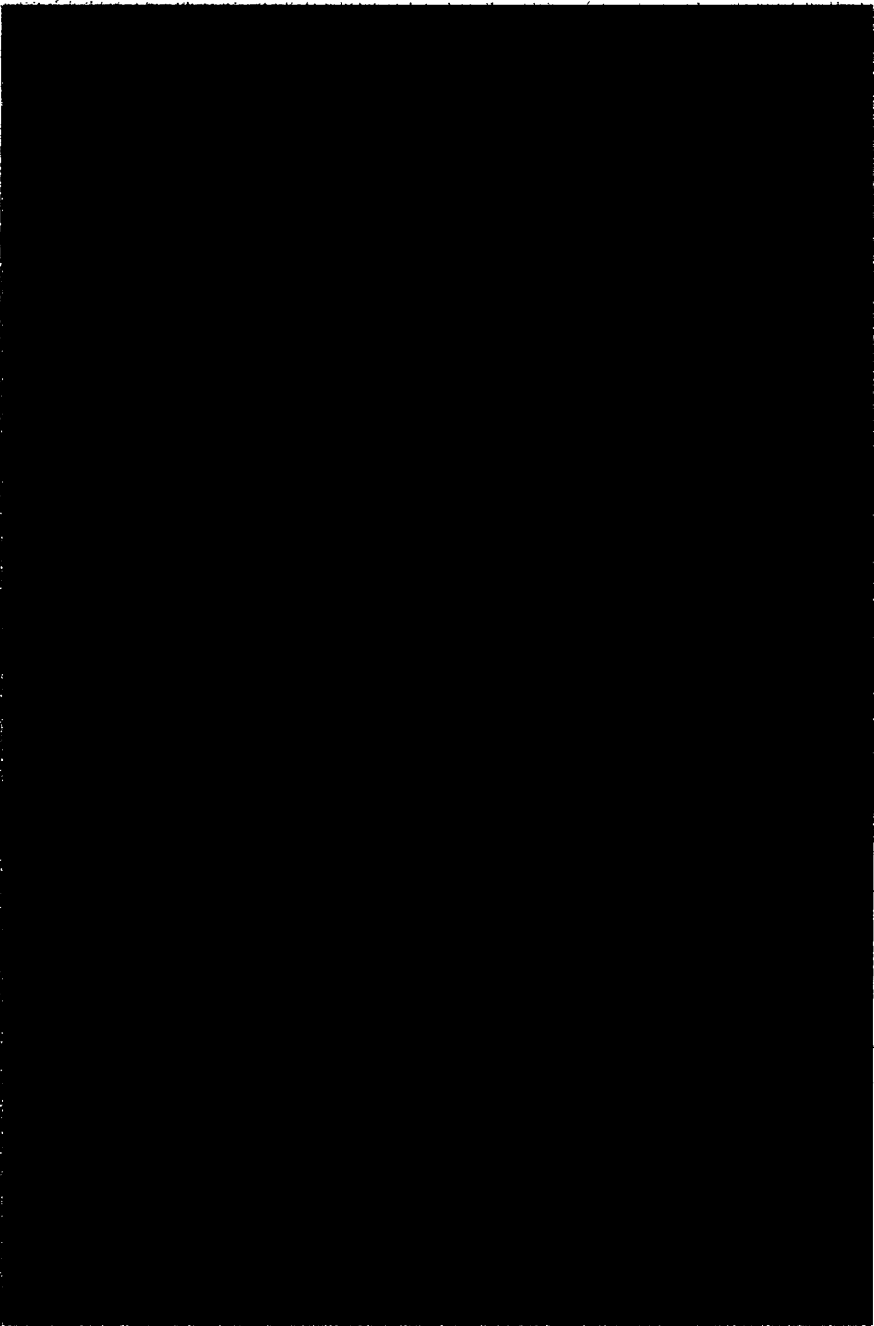
0610

海軍公報 (部内限) 號外

六

0611

海軍公報(部内限) 號外



七

0612

海軍公報 (部内限) 號外

八

0613

海軍公報 (部内限) 號外

九

0614



海軍公報 (部内限) 號外

一〇

0615

海軍公報  
(部内限)  
號外

0616

海軍公報  
(部内限)  
號外

0617

海軍公報 (部内限) 號外

二三

0618

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

海軍公報 (部内限) 號外

丁四

0619

海軍公報 (部内限) 號外

一五

0620

海軍公報 (部内限) 號外

一六

0621

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第三千九百五十七號

海軍大臣官房

昭和十六年十一月二十八日(金)

## ○令 達

官房機密第九〇九七號ノ七  
當分ノ間海軍警備隊ノ給與及其ノ他ノ經費支拂ハ海兵  
團主計長ヲシテ之ヲ掌理セシムルコトヲ得

昭和十六年十一月二十日

海軍大臣

官房機密第一一〇四七號

本年十二月一日現在ノ工具(見習工具ヲ除ク)ニ對シ  
左ノ標準ニ依リ定期賞與ヲ支給スベシ其ノ増減支給及  
本令施行ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長、海軍艦政  
本部長、海軍航空本部長及海軍施設本部長ヲシテ夫々  
關係ノ向ニ通牒セシム

昭和十六年十一月二十七日

海軍大臣

一 一般賞與

## ○通 牒

勤績一年以上ノ者	賃錢	三十八日分以内
同 十月以上ノ者	同	三十三日分以内
同 八月以上ノ者	同	二十八日分以内
同 六月以上ノ者	同	二十三日分以内
同 四月以上ノ者	同	十五日分以内
同 二月以上ノ者	同	十日分以内
同 一月以上ノ者	同	六日分以内
二 増加賞與		
徵用工具ニ對シ増給	賃錢	十二日分以内
但シ徵用期間三十日ニ付賃錢二日分トス		

官房第六一五一號

昭和十六年十一月二十七日

海軍次官

各所屬長官殿

賞與ノ一部ヲ以テ國債又ハ債券買入ニ關ス  
ル件申進

海軍公報(部内限) 第三千九百五十七號

昭和十六年十一月二十八日

一五五七

0622



昭和十六年末賞與國債支給運動ニ關シテハ本年官房第三一九八號別紙昭和十六年上期末賞與國債支給運動實施要綱ト同様ノ趣旨ニ基ツキ實施セラルルコトトナリタル處最近現下ノ情勢ニ對處スル爲本年度ノ貯蓄目標モ百三十五億圓ヨリ百七拾億圓ニ改訂セラレ國債ノ圓滑ナル消化亦一層喫緊ノ要務トナリ此ノ際全國的ニ國債支給運動ヲ強化徹底セシムルコトトナリタルヲ以テ海軍トシテモ極力之ガ目的達成ニ協力スルコトニ定メラレ候條國債買入標準ハ差當リ本年官房第三一九八號第四號ノ通トシ變更セラレザルモ賞與受給者各自ノ扶養家族ノ有無其ノ他ヲ斟酌シ實行上成ルベク之ヲ引上グ買入レシムル様指導方可然取計相成度

追テ貯金ニ就テモ右ト同様ノ趣旨ニ依リ實施スル様可然取計相成度

經物第一九五號

海軍契約規程施行手續中左ノ通改正ス

昭和十六年十一月二十日

海軍省經理局長

第三十五條及第四十條中「軍港又ハ要港所在」ヲ「鎮守府又ハ警備府所在地ニ在ル」ニ改ム

第三十七條中「軍港又ハ要港以外ニ在ル」ヲ「鎮守府又ハ警備府所在地以外ニ在ル」ニ改ム

第三十八條及第三十九條中「經理部長及軍港又ハ要港以外ニ在ル」ヲ「經理部長又ハ鎮守府若ハ警備府所在地以外ニ在ル」ニ改ム

第三十八條ノ二中「經理部長又ハ軍港若ハ要港以外ニ在ル」ヲ「經理部長又ハ鎮守府若ハ警備府所在地以外ニ在ル」ニ改ム

(會計法規類集四卷三〇一頁參照)

經豫第三號ノ四五五

昭和十六年十一月二十七日

海軍省經理局長

各支出官殿

支拂豫算ニ關スル件通牒

十二月分及一月上旬分所要支拂豫算ノ増額請求書ハ十二月十日迄ニ當局ニ到達スル様送付相成度

○ 辭 令

海軍艦政本部造船部兵監官會計官兼海軍航空本部造兵監官會計官海軍主計大佐 居倉 直記  
大阪監査官ヲ免シ富山監査官ヲ命ス(計部海軍省)

海軍大佐 森野草六郎(艦本)  
 同 朝比奈秀雄(水路部)  
 同 山高松次郎(筑紫)  
 海軍中佐 田中正雄(艦本)  
 同 南六右衛門(軍務)  
 海軍少佐 岩城繁(軍令)  
 海軍機關中佐 小山清行(艦本)  
 海軍機關少佐 江原靜(筑紫)  
 海軍軍醫大尉 吉田寧(同)  
 海軍主計大尉 近藤薰(同)  
 海軍造船中佐 松本喜太郎(艦本)  
 海軍造兵少佐 和田正三郎(同)  
 海軍造兵大尉 中村猛雄(同)  
 海軍豫備大尉 高松彌四郎(筑紫)  
 海軍豫備中尉 武石二郎(同)  
 海軍技師 末松茂(艦本監)  
 同 關甚作(同)  
 同 菊池正人(同)

○雜款

特務艦筑紫審議委員ヲ命ス(註)海軍艦政本部

○將旗掲揚  
 吳海軍警備隊司令官ハ十一月二十日將旗ヲ吳海兵團ニ掲揚セリ

○司令驅逐艦變更  
 第二十七驅逐隊司令ハ十一月二十五日司令驅逐艦ヲ白露ヨリ時雨ニ變更セリ

○司令潜水艦變更  
 第二十六潜水隊司令ハ十一月二十三日司令潜水艦ヲ呂號第六十一潜水艦ヨリ呂號第六十二潜水艦ニ變更セリ  
 第三十三潜水隊司令ハ十一月二十三日司令潜水艦ヲ呂號第六十八潜水艦ヨリ呂號第六十四潜水艦ニ變更セリ

○郵便物發送先  
 第三海軍軍需部宛  
 自今 吳郵便局氣付

○事務所設置  
 第一〇〇一番艦艇裝具事務所ヲ神戸市湊東區東川崎二丁目川崎重工業株式會社内ニ設置事務ヲ開始セリ

0624

# 海軍公報 (部内限) 附録

昭和十六年十一月二十八日 (金)  
海軍大臣官房

昭和十六年九月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期等左ノ通

(海軍省軍務局  
海軍省人事務局)

艦船名	加算始終期 (左)	發地名	行先	任務	加算率 (一月)	恩給叙勳	記事
足柄	九二二三	マデ					佐世保着
龍田	九一	舞鶴	南洋	遠洋航海	三分ノ一		
球磨	九七	マデ					吳着
長良	九九	マデ					舞鶴着
五十鈴	九一六	ヨリ	南支方面	事變地勤務	二月	二月	横須賀發
名取	九八	マデ					舞鶴着

海軍公報 (部内限) 附録

0625

能登呂	神威	長鯨	巖島	白鷹	八重山	初鷹	蒼鷹	磐手
九	九	九	九	九	九	九	九	九
二六	二六	七	八	六	六	七	七	一七
横須賀	同	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	ヨリ
	南洋							北支方面
	遠洋航海							事變地勤務
	一三分月							二月
								二月
								同發
								旅順着
								舞鶴着
								吳着
								佐世保着
								吳着
								横須賀着
								吳着

0626

海軍公報 (部内限) 附録

波野 風風	太 刀 風	秋 風	羽 風		沖 風	橋 立	占 守	出 雲	
九 一〇	九 一四	九 二五	九 二五	九 一九	九 一四	九 二四	九 二	九 一四	九 一三
大 湊	マ デ	マ デ	ヨ リ	マ デ	マ デ	マ デ	ヨ リ	ヨ リ	マ デ
		同	南支方面				佛領那印	中支方面	
		同	事變地勤務		(聯合艦隊)		同	事變地勤務	
		二月	二月				二月	二月	
		二月	二月				二月	二月	
	馬公着	舞鶴着 馬公發	同發 舞鶴着	馬公着		馬公着	馬公發	同發	門司着

三

0627

千鳥		刈萱	長文水阜 無		彌如	夕疾	追	松春	神沼
			月	月	生月	風風	風	風風	風風
九	九	九		九	九	九	九	九	九
一五	八	五		七	二九	一七	一九	八	一九
マ	ヨ	マ		マ	佐	佐	佐	マ	大
デ	リ	デ		デ	世保	世保	世保	デ	湊
北支方面		北支方面				同	南洋		
事變地勤務		事變地勤務				同	遠洋航海		
二月		二月				一三分月ノ	一三分月ノ		
二月		二月							
同着	同發	旅順着			佐世保着			横須賀着	

0628

海軍公報 (部内限) 附録

伊號第三十三潜水艦	伊號第三十二潜水艦	伊號第二十潜水艦	鵠隼	鴻	初雁	友鶴	眞鶴	
	一六	昭和一六 九	九	九	九	九	九	九
	九	九	九	九	九	九	九	九
	二七	二七	一七	一	二三	一八	七	一八
			マ	ヨ	マ	ヨ	マ	ヨ
			デ	リ	デ	リ	デ	リ
				南支方面		同	北支方面	同
	聯合艦隊	在役艦		事變地勤務		同	事變地勤務	同
	三分ノ月	一月		二月		二月	二月	二月
				二月		二月	二月	二月
吳着			馬公着	馬公發	舞鶴着	同發	旅順發	舞鶴着
								同發

五

0629

測天	第十二號掃海艇	第十一號掃海艇	第十號掃海艇	第七號掃海艇	第六號掃海艇	第五號掃海艇	第四號掃海艇	第三號掃海艇	第二號掃海艇	第一號掃海艇	呂號第六十潜水艦	呂號第六十一潜水艦	呂號第六十二潜水艦	伊號第一百二十三潜水艦
九			九		九				九		九			九
二九			七		六				五		一			一
ヨリ			マデ		マデ				マデ		佐世保			マデ
南支方面											同	同	南洋	
事變地勤務											同	同	遠洋航海	
二月											三分ノ月	三分ノ月	三分ノ月	
二月														
馬公發			佐世保着		徳山着				徳山着					横須賀着

0630



上巻二〇  
八巻一八〇  
下巻一七  
入シフ八  
ノ第  
記

海軍公報 (部内限) 附録

神 川 丸	朝 日 丸	野 島	早 鞆	尻 矢	佐 多		第 十九 號 潛 艇	第 九 號 潛 艇	第 七 號 潛 艇	第 三 號 潛 艇	第 一 號 潛 艇
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
六	二 九	二 六	二 〇	一 八	二 五	二 〇	一 九	二 〇	七	八	八
マ デ	ヨ リ	マ デ	ヨ リ	ヨ リ	マ デ	ヨ リ	マ デ	マ デ	マ デ	マ デ	マ デ
	南 支 方 面	北 支 方 面		中 支 方 面	南 支 方 面						
	同	事 變 地 勤 務		同	事 變 地 勤 務		在 役 艦				
	二 月	二 月		二 月	二 月		半 月				
	二 月	二 月		二 月	二 月						
佐 世 保 着	佐 世 保 發	鎮 南 浦 着	佐 世 保 發	横 須 賀 發	同 發 佐 世 保 着	馬 公 着		吳 着		横 須 賀 着	

七

0631

勝 泳 丸	辰 和 丸	白 山 丸	萬 光 丸	那 智 山 丸	總 洋 丸	首 里 丸		廣 德 丸	葛 城 丸
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一四	一一	七	二六	二二	一三	一〇	三	一一	一一
横 須 賀	マ デ	マ デ	マ デ	ヨ リ	マ ヨ リ	ヨ リ	マ デ	ヨ リ	マ デ
南 洋				南 支 方 面	中 支 方 面	北 支 方 面		那 佛 南 支 領 印 度 支 及	
遠 洋 航 海				同	同	事 變 地 勤 務		事 變 地 勤 務	
一 三 分 ノ 月				二 月	二 月	二 月		二 月	
				二 月	二 月	二 月		二 月	
	高 雄 着	佐 世 保 着	高 雄 着	高 雄 發	古 江 着 高 雄 發	同 發	旅 順 着	同 發	高 雄 着

0632

以下分加アル  
下通ル算セ  
何知送謝ト

海軍公報 (部内限) 附録

金剛山丸	小牧丸	富士川丸	揚鹽丸	梅水丸	いくしま丸	盛武丸	京昌丸	新長威妙丸	京沙興高丸	生田丸
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一	七	七	一	一	七	一〇	一〇	七	七	八
マ	マ	マ	ヨ	マ	マ	マ	マ	マ	マ	横須賀
デ	デ	デ	リ	デ	デ	デ	デ	デ	デ	同
			南支方面							同
			事變地勤務							同
			二月							三分ノ月
			二月							
馬公着	館山着	佐世保着	同發	馬公着	佐世保着	佐世保着	佐世保着	佐世保着	佐世保着	

九

0633

福 山 丸	第三 文 丸	第三 昭 南 丸	第十 一 昭 南 丸	高 榮 丸	武 庫 丸	三 江 丸
昭和一六	昭和一六	昭和一六	昭和一六	昭和一六		
九	九	九	九	九	九	九
一二	二六	三〇	二〇	二九	二九	七
横須賀	見	横須賀		横須賀	横須賀	横須賀
同	同	南 洋				南 洋
同	同	遠洋航海	聯合艦隊			遠洋航海
三分ノ月	三分ノ月	三分ノ月	三分ノ月			三分ノ月

訂正 四月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期等中五頁鹿島ノ項「四、一四、吳」ヲ「四、一三、吳」ニ改メ、  
 同六、七月中一四頁及八月中八頁襟裳ノ項ヲ削リ、同八月中一一頁妙高丸ノ項「八、一六マデ馬公着」  
 及「八、二〇」ヨリ同、同、二月、二月、同發」ヲ削ル  
 備考 恩給加算事項發生ノトキハ昭和五年軍務第一八一號照會(會計法規中卷七六九頁參照)ニ依リ各艦  
 船ヨリ直ニ通報ノコト

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百五十八號

昭和十六年十一月二十九日 (土)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房機密第一一四七號

昭和十五年官房機密第八一七二號中左ノ通改正ス

昭和十六年十一月二十九日

海軍大臣

特設海軍氣象部ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

特設海軍燃料廠 會計部長 會計部部員

## 附 則

本令ハ昭和十六年十一月五日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十五年官房機密第八一七一號ハ特設機關ニ於ケル通常  
物品出納命令官及通常物品會計官吏ノ區分ノ件ナリ

官房機密第一一四八號

昭和十五年官房機密第八一七二號中左ノ通改正ス

昭和十六年十一月二十九日

海軍大臣

特設海軍病院ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

特設海軍燃料廠 所掌經費支辨事項 會計部長

## 附 則

本令ハ昭和十六年十一月五日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十五年官房機密第八一七二號ハ特設機關ニ於ケル契約  
擔任區分ノ件ナリ

官房機密第一一四九號

左記ニ依リ通商保護關係講習ヲ實施ス

昭和十六年十一月二十九日

海軍大臣

## 記

一 講習期間及講習場所

十二月二、三、四日

海軍省

十二月五、六日

横濱在勤海軍武官府

二 講習事項

地方在勤海軍武官トシテ通商保護上須知スベキ事項

海軍公報 (部内限) 第三千九百五十八號

昭和十六年十一月二十九日

一五六一

0635

三 指導官

海軍省兵備局第三課長  
横濱地方在勤海軍武官

四 講習員

臨時地方在勤海軍武官(同附士官ヲ含ム) 豫定者

○ 通 牒

軍務一機密第八四六號

昭和十六年十一月二十八日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

艦内工作ニ依リ船體構造ニ電氣熔接使用ニ  
關スル件申進

從來電氣熔接機ハ熔接工場内ニ於ケル作業用トシテ供給セラレアル處今回船體應急修理用トシテ電氣熔接機ノ増加、固有電纜ノ敷設、遊動電纜ノ増備等ニ關シ研究申ニシテ既ニ其ノ一部ヲ實施セラレタル艦モ有之、就テハ艦内工作ニ依リ船體構造ニ直接電氣熔接ヲ行フコトハ船體ニ歪ヲ生ズル等構造上惡影響ヲ及ボスノミナラズ直流電氣熔接ハ船體ノ腐蝕ヲ促進スル等ノ惧アリ

度  
ルヲ以テ之ガ使用ニハ左記諸項嚴守ノコトニ取計相成

記

- 一 常時ハ熔接工場内ニ於ケル作業ノミニ限定シ且船體ニ直接電氣熔接ノ使用ヲ行ハザルモノトス
- 二 戦闘時被害又ハ坐礁等不慮ノ災害ニ依リ船體ノ損傷ニ對シ應急修理用トシテ電氣熔接ヲ最モ有利トスル場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス
- 三 前號ニ依リ使用スル場合ニ於テ地絡線ノ接着位置ハ電氣熔接ヲ行フベキ損傷箇所ニ極力近接セシメ以テ電流ノ船體回路ヲ最短ラシムル如クスルモノトス

軍務一機密第八五一號

昭和十六年十一月二十八日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

火災防止ニ關スル件申進

去十一月四日吳ニ於テ工員宿舍七棟及附屬建造物十六棟ヲ全燒セル事故アリ其ノ原因ハ憲兵調査ノ結果一工員ガ喫煙直後ノ煙管(雁首ニ火氣殘存ス)ヲ徳用マツチ箱(内部ニ刻煙草入用罐詰罐、小箱マツチ一箇及マ

0636

ツチ軸十數本殘存セリ）ニ納メ取急ギ之ヲ居室ノ物入内ニ入レ施錠シタル後夕食ノ爲同室ヲ立出デタル處該煙管ニ殘存セル吸殻ノ火氣ニ因リマツチニ點火シ次デボール箱、柳行李等ニ引火シテ大事ニ立至レルコト判明セリ。

各部ニ於テハ火災防止ニ關シ既ニ萬全ヲ盡サレツツアル次第ナルモ前記實例ニモ鑑ミ此ノ上トモ災害防止ニ關シ留意相成度

兵備二第三二〇號

昭和十六年十一月二十九日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

電力調整令ニ依ル消費規正ニ關スル件申進

首題ノ件遞信省告示第二千三百四號（昭和十六年十一月二十日官報）ニ基キ實施セララルコトト相成候處左記ニ依リ軍需品生産上必要ナル電力確保ニ努ムル様致度

尙海軍ニ於テ直接需用スル電力ニ付テハ本消費規正ノ適用ナキモ冬季電力不足ノ現狀ニ鑑ミ電力ノ節約尖頭負荷時ニ於ケル消費ノ調節等消費規正實施ニ關シ協力

方可然配慮相成度

記

一 七月以降ノ國際情勢ノ急變ニ依ル生産量増加ノ爲基準電力量増加ヲ要スル工場ニ付テハ地方電力調整委員會海軍委員（監理長、監督長若ハ首席監督官）ヨリ遞信局長ニ申入ノ上基準電力量ヲ増加スルコト右ノ場合軍需品製作ニ難口シテ民需品製作用電力ヲ増力スルガ如キコトナキ様嚴ニ注意スルコト

二 電氣爐等ノ如ク短時間操業可能ナルモノハ深夜餘剩電力ノ使用等特別ノ措置ヲ講シ生産力ノ低下ヲ極力防止スルコト

三 本消費規正實施期間中ト雖モ降雨其ノ他ノ事由ニ依リ電力ノ餘裕ヲ生ジ一時の制限ノ緩和若ハ解除ヲ行フコトアルベキニ付之ヲ適用スベキ工場ノ選定及順位ニ關シ豫メ遞信局ト打合セラナシ置クコト

航本機密兵整第一二六二號

昭和十六年十一月二十九日

海軍航空本部總務部長

各部隊、海兵團、學校長殿

教材用飛行機及發動機ニ關スル件照會（整）

海軍公報（部内限）第三千九百五十八號

昭和十六年十一月二十九日

一五六三

0637

備長主管

各部隊、海兵團、學校、練習部等ニ教材用トシテ供用中ノ飛行機及發動機(切斷セルモノヲ含ム)ノ製造所、機種別、受入年月日等左記様式ニ依リ十一月一日現在ニテ通知相成度

記

機種別	受入年月日	製造所	製造番別	記号
(例) 九九式艦上爆撃機	16. 1. 3	愛知	123	
(同) 天風發動機 一型	15. 6. 31	瓦斯電	52	切斷ノモノ

○ 雜 款

○郵便物發送先  
 豊津丸宛  
 自今  
 横須賀郵便局氣付第九〇四〇

當班宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度

十一月三十日迄ニ到達見込ノモノハ  
 吳海軍建築部氣付 海軍矢部部隊  
 其ノ後ハ 佐世保郵便局氣付 同  
 (第一二設 營 班)

○事務所設置

第四工作部設立準備事務所ヲ十一月二十一日第四根據地隊司令部内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○羅津根據地隊司令部職員並ニ羅津通信隊ノ給與及其ノ他ノ經費ハ十一月一日以降羅津根據地隊主計長之ヲ掌理ス  
 (羅津根據地隊司令部)

○第十版内令提要追録第九號十一月二十八日發送濟ニ付受領ノ上ハ速ニ受領票送付相成度  
 (海軍省 副官)

○正誤

本月二十六日辭令欄中「海軍中佐小田原俊彦」ハ「海軍大佐小田原俊彦」ノ誤

0638



# 海軍公報 (部内限) 號外

昭和十六年十一月二十九日(土)  
海軍大臣官房

## ○ 雜 款

在支陸海軍軍人軍屬警察官並其ノ遺族等慰問金釀出明細表 (八月分)  
一金壹萬貳千壹百貳圓八錢也

内 譯

(限 内 部)

同 人事局 (含武功調査)	同 兵備局	海軍省軍務局	海軍文庫	同 電信課	海軍省調査課	海軍大臣官房	應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額
九三〇	八三七〇	一六九〇	五三〇〇	二五五〇	二七九〇	五三九〇	海軍省教育局	五八八〇	同 軍需局	八〇七〇	海軍航空本部	一〇五二〇	海軍軍醫學校	二九〇七〇
海軍艦政本部	軍 令 部	同 法務局	同 經理局	同 醫務局	同 軍需局	海軍省教育局	海軍省教育局	五八八〇	海軍施設本部	一七二五〇	海軍施設本部	一七二五〇	海軍經理學校	一〇九三〇
六四四九〇	三三三三〇	一八八三〇	一四九〇	一四二六〇	八〇七〇	海軍施設本部	海軍施設本部	一〇五二〇	東京海軍監督官事務所	二三五〇〇	東京海軍監督官事務所	二三五〇〇	橫須賀鎮守府	五四三〇
海軍大學校	海軍技術研究所	水 路 部	侍從武官府	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	二九〇七〇
六〇五〇	三五六九〇	四七三三〇	一三一九〇	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	二九〇七〇
同 艦船部	部 橫須賀海軍人事	同 軍法會議	庫 橫須賀鎮守府文	庫 橫須賀鎮守府文	海軍經理學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	二九〇七〇
一四三三〇	五四六四〇	九六五〇	八九四〇	五四三〇	一〇九三〇	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	一〇五二〇	海軍軍醫學校	二九〇七〇

海軍公報 (部内限) 號外

0639

海軍工機學校	海軍砲術學校	海軍航空技術廠	海軍航空技術廠	海軍航空技術廠	橫須賀海兵團	橫須賀海兵團	同 通信隊	同 港務部	同 刑務所	同 病院	同 航空隊	同 工廠	同 建築部	同 軍需部	部 橫須賀海軍經理
九四〇	二二六〇	二四二〇	五三六〇	一三九〇	五五九六〇	五五九六〇	七一〇	五五三〇	七二〇	一六四七〇	六〇〇〇	五三九五〇	一〇三九〇	四四九〇	二六八〇
同 軍需部	同 經理部	部 佐世保海軍人事	同 軍法會議	庫 佐世保鎮守府文	佐世保鎮守府	佐世保鎮守府	手 吳海軍工廠内技	同 港務部	同 刑務所	同 工廠	同 建築部	同 軍需部	同 海軍經理部	議 吳鎮守府軍法會	海軍工作學校
二九八〇	四七〇	四三三〇	二八〇	九六〇	五三〇〇	五三〇〇	一九四〇	三七二〇	六五〇	七三七〇	一六三〇	三六〇九〇	三三六〇	一三六〇	五〇〇
別府海軍病院	同 通信隊	大湊海軍工作部	大湊要港部	鎮海防備隊	鎮海海軍航空隊	鎮海要港部	佐伯防備隊	佐世保海兵團	同 港務部	同 刑務所	同 病院	同 航空隊	同 工廠	部 佐世保海軍建築	
三六四〇	六九九〇	一五六〇	一四二三〇	五三三〇	五三三六〇	一三〇一九〇	一三三七〇	三三七八〇	三七八〇	七三〇	九六〇〇	五五八二〇	四四四六〇	三〇二四〇	
浦賀同	名古屋同	八幡同	大阪海軍監督官事務所	光海軍工廠	豐川海軍工廠	廣海軍工廠	第三海軍火藥廠	第二海軍火藥廠	第一海軍火藥廠	第五海軍燃料廠	第三海軍燃料廠	第二海軍燃料廠	海軍兵學校	娯野海軍病院	
一三四六〇	四三三七〇	一四七七〇	一一八三〇	八三七八〇	七三六九〇	三六四一〇	三〇九四〇	七三二七〇	三三七〇	九七〇	一三六〇	七三九〇	三三四八〇	三〇〇	

0640

海軍公報 (部内限) 號外

廣島同	玉同	福岡海軍監督官事務所
一九七〇	九五三〇	一九二四
阪神海軍部	大阪同	名古屋海軍地方人事部
二〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇〇
昭和拾六年拾壹月 日		軍艦津輕
海軍省經理局		三七〇
海軍主計少佐 兒玉 茂		

三

0641